

ピアノ アドバイザー



益子 徹

宇都宮市出身。

宇都宮短期大学附属中学校，同附属高校普通科特進コースを経て宇都宮大学教育学部音楽科卒業。その後渡英，英国王立北音楽大学(RNCM)大学院伴奏科ディプロマコース修了。大学院在学中より同校伴奏助手を務める。

第11回栃木県ピアノコンクール大学・一般の部優秀賞。

タイ・バンコクにおける2台ピアノ連弾公演、ヴァイオリンリサイタル、フルートリサイタルなど伴奏者、室内楽奏者として国内外で活動のほか、後進の指導にもあたっている。

ピアノを高橋 恵子、築木 純夫、小林 功の各氏に、伴奏法をJ.ウィルソン、J.ドレイクの各氏に師事。

宇都宮短期大学音楽科准教授・同附属高等学校音楽科講師。エルベ音楽院ピアノ科講師。

Am I too loud? ～伴奏者の視点から～

イギリス生まれの高名な伴奏ピアニスト、ジェラルド・ムーア（Gerald Moore, 1899-1987）の著書のタイトルです。「お耳障りですか？」と日本語に訳されていますが、伴奏者はいつも、この「お耳障りですか？」に気を使うことになります。

1. 伴奏

最近では、共演者（Collaborative Pianist）という言い方もいたしますが、「主役」の音楽に寄り添い、「主役」が心地よく“音楽”できるように、そして「主役」の音楽を通して、お客様が至福の時間を過ごせるようなサポートをする、それが伴奏者の役割だと考えています。ですので、Accompany（伴う）から派生する、Accompanist（伴奏者）という肩書を好んでいます。



2. チューニング

ほとんどの場合中音 A の音でチューニングを行いますが、楽器によって、また奏者によっては、ほかの音を希望する場合がありますので、確認しておくことが肝要です。基音がきちんと聞き取れるよう、ペダルを使わずに単音で出すのが原則です。

3. 弾く前の準備



椅子の高さ，譜面台の角度，譜面の準備，そしてペダルの確認も大切です。ピアノによってペダルの感触は全く異なります。踏みしろが深いもの、浅いもの、重い軽いなどありますので、演奏前に必ず確認してください。ピアノの鍵盤の高さも、ピアノによって全く異なります。椅子に座り、鍵盤

に手を置いた感覚で、椅子の高さを調整することも忘れないでください。

4. 大屋根の問題

アンサンブルの場合，大屋根（ピアノの蓋）の開きをどうするか，が良く問題になります。ソリストの立ち位置にもよりますが，屋根を全開にすると，ソリストが屋根を反響板代わりに使うことができますが，伴奏者には，繊細なバランスコントロールが求められます。

一方，屋根を閉めると音量をある程度セーブできる代わりに，響きがナローになります。一長一短ですので，できれば客席から事前チェックしてもらおうとよいでしょう。

大切なのは，客席に響きがどう届いているか，いつも意識することです。



5. 譜めくり

伴奏者の好みになりますが、譜めくり(Page Turner)を付けない場合は、めくりやすいような楽譜の準備が必要です。譜めくりつける場合には、信頼のおける人をお願いし、めくりについての打ち合わせを必ずしてください。

6. 伴奏と伴走

伴奏者は、黒子や秘書、足軽、執事などなど、様々な役割を担います。裏方にとどまらず、主役になることもあります。大切なのは、本番への臨機応変な対応。それは演奏中に限らず、控室での気遣いや、会話も含まれます。全集中で「主役」をサポート、伴走することです。

～最後に～

いろいろな条件がうまくかみ合っこそ、お客様に喜んでいただける音楽を奏でられる。それは、ホールに一步踏み入るところから始まる、と思っています。

